

## 平成 19 年度第 4 回新潟空港アクセス改善検討委員会を 開催しました

新潟県は、新潟空港アクセス改善の段階的取組の実施に当たり、有識者による「新潟空港アクセス改善検討委員会」を設置し、同委員会の取組に対する継続的な評価・提言や、将来の社会情勢の変化等に対応したシナリオの再評価、見直し等を踏まえて検討を進めています。

平成 19 年度第 4 回委員会を開催しました。会議の概要は以下のとおりです。

### 記

#### 1. 日時・場所

平成 20 年 1 月 24 日(木)14:00～16:00

新潟県自治会館 別館 9 階 902 会議室 新潟市中央区新光町 4-1

#### 2. 委員の構成、会議資料 添付のとおり

#### 3. 主な議論・発言

##### (1) 短期的取組について

##### 南口バス新設の検討について

空港バスの想定される運行形態（運行頻度、ダイヤ等）、ルート等について、事務局から考え方を説明し、意見交換を行った。

- ・ 南口バスルートについては、速達性・定時性、快適性、距離の観点から総合的に判断して、国道 113 号線経由ルートが現時点で最適であると評価した。
- ・ 次回検討委員会では、運行形態については、南口発着バス開設を前提に、利用者動向への影響等を更に考察するとともに、利便性・事業性を踏まえた頻度・ダイヤ設定のあり方について検討を行う

##### 主な委員意見

##### 【運行形態（運行頻度・ダイヤ設定について）】

- 頻度アップを行った場合の採算性の検証を行った上で運行頻度を含めた事業計画を決めるべき。
- 利用率が増えていることは望ましいことであるが、費用対効果の観点も必要である。少し運賃の値上げをして採算性を確保する考え方もある。
- 新潟の拠点化という観点から戦略として空港アクセスの向上が必要であれば、行政が支援等を行うことも視野に入れるべき。
- バスの車両タイプといった快適性を高める運行、顧客満足度を高める必要がある。

##### 「空港バスの乗降口について」

- 万代シティ周辺利用者の問題は、空港アクセスだけでなく新潟の街づくりの問題でもある。そうした観点からも検討を行う必要がある。
- 万代シティの話は空港バスだけでなく、他の路線バス等も含めて考える必要があるが、空港バス利用者の大半は新潟駅を経由した利用者であることからまずは空港バスとしてどうあるべきかという議論を優先すべき。

- 万代シティ周辺からの利用者は松浜方面の路線バスを活用するといった考え方もある。こうした他のバス路線の情報も新潟空港のホームページ等で提供すべき。

「南口バスルートについて」

- 途中停留所も設けて通勤利用者も取り込むことも検討してはどうか。
- 荷物の多い空港バス利用者にとっては、通勤、通学利用者が乗っていない方が望ましい。
- ルートとしては、国道 113 号線経由ルートが現時点で最適である。

(2) 中・長期的取組について

中・長期的取組の検討状況について

事務局から、軌道系による改善案のうち、臨港貨物線案について、現時点での検討状況(短絡線接続ルート等)や昨年3月に開業した仙台空港アクセス鉄道の現在の利用状況等について、報告を行った。

- ・ 更に勉強会で課題の掘り下げを進めるとともに、次回の検討委員会では、今年度の検討結果をとりまとめて中間報告を行う

主な委員意見

- 臨港貨物線から短絡線で JR 在来線へ乗り入れる案については技術的に困難であることがわかった。東京駅のように膨大なコストをかけて線路を移設するといったことは、新潟空港のアクセスでは考えられない。今後は他の案の検討を深めていくこととする。

本件についての問い合わせは  
交通政策局港湾振興課企画班 内線 3458  
担当：中川、原田、覚張(がくはり)までご連絡ください。